



2023年1月1日発行
公益財団法人とちぎYMCA
〒320-0411
宇都宮市松原2-7-42
Tel 028-624-2546
Fax 028-624-2489
www.tochigiyymca.org
発行人 / 塩澤 達俊
編集人 / 公益財団法人とちぎYMCA

YMCA News

1



YMCAの原点「愛と奉仕」

表紙の写真から：ウィンタープログラムにて。雪を全身で味わっています。

皆様、新年明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお祈りいたします。

昨年も新型コロナにより大変な思いをし、皆がご苦労の多い一年でした。そうした中、ワイズメンズクラブや会員ボランティア等、とちぎYMCAに関係する皆様にお支えいただき、ウクライナ支援のチャリティーコンサートや3年ぶりにチャリティーランをリアルに行うことが出来ました。特にスタッフの方々の献身的に立ち向かう姿勢には大いに心を打たれる思いで、YMCAに身を置くものとして感謝に耐えないところです。有難うございました。少しずつではありますが、感染対策も行き届いてきて、出口の薄明かりが見えつつあります。今年は皆がリアルに集い活動できる明るい年になるよう祈りながら希望をもって Positive に行きましょう。また、ウクライナに一日も早く平和が戻りますようお祈りいたします。

さて、話題として新年のご挨拶には些かどうなのかと思いつつも、なかなか皆様とお話しする機会も限られますので、私がYMCAに強く思いを寄せる原点について少しお話をさせていただきます。

私には今ライフワークとも言える二つのものがあります。一つは勿論YMCAです、もう一つが「更生保護」というものです。耳慣れない言葉かもしれませんが、非行や犯罪に陥った人たちが正常に社会復帰していく指導サポートをしていく制度です。私はこの世界に40数年身を置き、今も更生保護施設の運営に携わっています。

保護司については良く分からないが聞いたことがある、という方もおいでのことと思います。もう一つの更生保護施設とは、犯罪者として刑務所に服役し、そこから釈放される時などに身元を引き受けてくれる人（親、兄弟、親類、知人など）がいない、あるいは居ても引き受けを拒む、帰るところも住む所も無い。といった者やホームレスで万引きなど犯罪を繰り返し、逮捕されたが起訴猶予となり、このまま保護の手を差し伸べないと、また同じことを繰り返す恐れがある者などを保護し、寝食を与えて私生活や社会規範の指導・相談等また職業を探して自立への助けを行い、社会復帰を支援するところです。そのような中で犯罪者といわれる多くの人たちと接し、生い立ちについて遡り、養育環境等について知ることとなります。全ての者とはいませんが、大半がと言っても過言ではないと思います。親の虐待・貧困等、養育環境が劣悪であったり、残念ながら障がいを持って成長し、社会の中で阻害されたりして、彼ら自身が人を信じない、社会を信じていないのです。私がお話ししたいのはこの事なのです。

ここで歴史を遡り、江戸末期から大正にかけて活躍した二人の人物を紹介いたします。紙面に限りがあり極々ざわりだけの要約になりますが、二人の人生とも前半生は犯罪者を厳しく罰する立場で仕事をしますが、後半生は罪を犯してしまった人達を保護し、社会復帰の手助けをする施設を開設、また、YMCAの要職について奉仕しているのです。

・原 胤昭（はら たねあき、1853~1942）江戸末期14歳時に与力として大江戸人足寄場（刑務所の職業訓練所のような所）の見回り役を務めていました。明治維新となり、仕事もそのまま組織変更となった東京市政裁判所で勤務を続けますが、退職して当時銀座で事業を営みつつキリスト教の信者になります。虐げられた人々の力になりたいと、東京出獄人保護所（今の更生保護施設）を開設し、生涯1100余人を保護し、彼の著書「出獄人保護」は更生保護に関する古典とも言われています。東京YMCA設立時（1880・明治13年）の理事として奉仕しています。

・有馬四郎助（ありましろすけ、1864~1934）多くを語らずともかの有名な網走刑務所（釧路集治監網走分監所）の責任者を務め、最も刑の進んだ荒くれ受刑者たちから「鬼のしろすけ」と恐れられていました。そうした中、北海道家庭学校を開設し恵まれない子供達の養育に生涯をささげた、留岡幸助や前出の原胤昭などとの親交により、留岡（牧師）より洗礼を受けます。その後東京の小菅監獄（刑務所、今の東京拘置所）時代、クリスチャン典獄（刑務所長）として受刑者から慕われ、受刑者たちを愛し続けたとのエピソードも残されています。横浜に更生保護施設（現存して私達とも交流があります）を創り、小田原に少年院を開設しています。横浜YMCAの二代目理事長に就任し奉仕されました。

既に紙面も尽きています。多くは語れません。愛と真心がなければ真の更生は無いです。私には知ることとなりました。YMCAの原点「愛と奉仕」です。

今年もみんなで“みつかる つながる よくなっていく”！

公益財団法人とちぎYMCA
理事長 鷹箸 孝



とちぎYMCAの使命。 ~みつかる。つながる。よくなっていく。~

2022年度とちぎYMCA年間聖句

何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。
(ピリピ人への手紙 4章6節)



認定こども園 さくらんぼ幼稚園 「年女の抱負」



早いもので(毎年思いますが)3学期になりました。今年は卯年。うさぎの跳び姿から卯年は「飛躍」の年と言われているようです。いくつになっても、たくさんの事に挑戦する気持ちを持って過ごしていきたいと思っています。今年もどうぞよろしくお願いいたします。ここで新年を迎え2023年、年女の職員に抱負を聞きました。

【まあがれっと組担任 金子 楓】

さくらんぼ幼稚園に就職して3年が経ちました。昨年までは先輩の先生方に色々なことを教えていただいたり、助けていただいたりしました。今年は4年目になります。今まで教えていただいたことや、学んだことを生かして、自分の仕事に責任感や自信を持ちたいと思います。また、優しい先生方や温かく見守って支えてくださる保護者の方々、元気いっぱいな子どもたち、恵まれた環境で仕事ができていることに感謝を忘れず、励んでいきたいと思っています。

【いるか組担任 古谷 真菜】

昨年2022年は、ドキドキとワクワクを胸に、駆け抜けた1年でした。今年はさくらんぼ幼稚園に通うたくさんのお友達ともっともっとお話したり遊んだり、楽しいことをたくさんして昨年以上に多くの笑顔を見ることができたらいいなと思います。

うまれてから卒園までさいこうな思い出をぎゅっとつめてこんでどんどん成長するしゅんかんを大切に過ごしていきたいと思っています。大好きなさくらんぼ幼稚園のお友達そして保護者の皆様、本年もよろしくお願いいたします。

【ひよこ組担任 岩月 彩華】

わたしの今年の抱負は『いつもとびきりの笑顔で!』です。昨年は憧れの保育者として大好きなお友達と楽しい毎日を過ごすことができました。その中で子どもたちの『とびきりの笑顔』にたくさん出会い、元気をもらいました。そして、保育者こそ笑顔忘れてはならないと改めて感じた1年でした。今年もまだまだコロナ禍が続きますが、マスクをしていても届く笑顔で子どもたちと一緒にたくさん笑って、楽しく1年を過ごして行けたらいいなと思います。

ようとう保育園 「2022年度社会体験学習 宮っ子チャレンジウィーク」



(9月5日～9月9日) 横川中学校 2名、(9月12日～9月16日) 陽東中学校 4名、(11月28日～12月2日) 泉が丘中学校 5名、計11名の中学2年生の受け入れをしました。生徒の皆さんと初めて顔を合わせるのオリエンテーションです。保育園は子ども自身の育ちと保護者の子育てを支援する機能を果たす、

児童福祉法に基づく児童福祉施設であることや、保護者の皆さまが仕事や病気等で家庭で子育てができない時間、生まれたばかりの赤ちゃん(生後8週)から小学校に入学する年齢まで保育・教育する場所であることを説明します。さらに保育士以外に、看護師、調理員(栄養士)、事務長、嘱託内科医師や歯科医師といった様々な分野のスタッフがいることを伝えると緊張した面持ちのなか、自身の乳幼児の頃を思い出し、興味深く話を聞いてくれます。

ようとう保育園では、限られた日数で深く学んでもらうため、乳児組と幼児組1クラスずつ体験してもらいます。いざ保育現場へ入る初日は、より緊張感が増し、目の前ではしゃぐ園児にどのように関わろうか? 困惑する姿がありますが日増しに表情がほぐれ、あそびはもちろん、食事の準備やおむつ交換も積極的に行えるようになり、最終日の反省会では、「乳児から幼児の発達の著しさに驚いた」「子どもってかわいい♡」「家では弟で姉にいつもあそんで貰ったり面倒を見て貰っているのその時の気持ちを活かして子どもたちと関わった」等々...一人ひとり自信に溢れた感想を述べ、園児たちとの別れを惜しみつつまでも手を振り合う姿は、たった5日間の関わりとは思えないほどでした。

コロナ禍が続く中、生徒の皆さまの将来の職業選択や社会生活について考えを深める時間、主体的に自己の在り方や生き方を見つめる時間を徹力ながらお手伝いできたことに感謝申し上げます。

唐沢 奈緒

子どもの家だより～ ゆいの杜小子どもの家(クローバークラブ) 「寒さに負けない!子どもたち!」



クローバークラブは、ゆいの杜小学校内にある2つの棟で約200名の子どもたちが利用しており、各部屋学年縦割りで学習の時間やおやつの時間、室内遊びの時間を過ごしています。12月に入り、寒くなってきましたが、外遊びになると全部の部屋の子供たちが一緒になるので、より伸び伸びと鬼ごっこやサッカー、ボール遊び等をして寒い中でも外遊びを楽しみに元気に過ごしています。11月下旬には、クリスマス制作でモールリース作りをし

ました。3本のモールを全部使って1つのリースを作る子もいれば、ハート型や星型にする子等、それぞれの個性が出た素敵なリースが出来上がりました。家に持ち帰るときも「早く飾りたい!」と嬉しそうなお子ちゃんでした。これからはもっと寒くなってくるので、子どもたちの体調面にも気をつけながら過ごしていきたいと思っています。

支援員 八木澤 茜
主任支援員 岡田 真由美



宇都宮市青少年活動センター トライ東 「新年のご挨拶」

皆様 2023年の新春を迎え、謹んで年頭のごあいさつを申し上げます。2022年は皆さんにとってどんな1年でしたか。1年を振り返る上でその年の年末に発表される流行語大賞や漢字などを参考にするのはいいでしょうか。ちなみに流行語は「きつねダンス」「キーク」「村神様」「悪い円高」などが選ばれ、漢字では「戦」という文字が選ばれました。

「戦」が選ばれた理由をご存知でしょうか。ロシアによるウクライナ侵攻や北朝鮮の相次ぐミサイル発射など「戦」を意識したという声が多かったためだそうです。

日本のYMCAは、第二次世界大戦における歴史的責任を認識し、『日本YMCA基本原則』において世界の人びとと共に平和の実現に努めることを誓っています。今回の、ロシアによるウクライナ侵攻について、軍事侵攻に反対し、国際的な意見の相違があっても戦争が解決策になることはなく、対話と協力による外交的な解決策が見つかり、武力紛争が一刻も早く終結することを強く願います。(日本YMCA同盟HP参照)

皆さんの周りでも「戦」があったのではないのでしょうか。例えば、日本経済をおそった物価高騰。賃金が上がらない中で物価上昇により国民生活が厳しく圧迫され、世界的なインフレ、コロナ禍、ロシアのウクライナ侵攻、急速な円安を背景に、食料品、日用品、電気、ガスなどあらゆる分野で値上げも相次ぎました。

そんな年でしたが、やはり日本中が盛り上がり、感動と元気をもらった「戦」もありました。「FIFAワールドカップカタール2022」。歓喜の金星に沸いたドーハの地と日本列島。戦前は「2強2弱」と予想されていたグループステージだったものの、日本のジャイアントキリングによって様相は一変。決勝トーナメントでは、惜しくもPKで負けてしまいましたが、日本全体が元気になった気がします。このように日本中を笑顔にしてくれた今回のワールドカップ。その中でも私が印象的だったことは、日本代表の森保監督らが帰国し、記者会見で語った「謙虚さ」です。国民に向けて「日本から熱い共闘の熱いエールが届いていたおかげで、我々は、そして選手は心強く勇気を持って世界に挑むことが出来ました。本当に皆さんの応援がチームのエネルギーになったことをお伝えできればと思っています」と謝辞を述べ、「今回は我々だけで戦ったのではなく、チーム、サポーター、国民の皆さん、日本が一丸となって戦えば、世界と戦える。どんな相手も倒していけるという力を持つてを国民の皆さんと共有できたら嬉しいです」との思いを語られました。

自分の事には触れず、そこに関わらずすべてのものに支えられたこと、また応援してくれたことに感謝する発言は、とても感動するものでしたし、日本人として誇りに思いました。またそれと同時に、人は多くの支えによって育てられ生きていけることを改めて感じた瞬間でもありました。

時に優しく支え、時に厳しく支える存在が誰にも必要です。そして、支えられている自分自身も実は誰かを支えています。人は人を必要とし、また人に必要な存在でありたいものです。そのような思いの中でトライ東は今年も、様々な人と出会い、仲間になり、お互いの存在が様々な影響を与え、それぞれ成長していくことで、自分の価値や自信を感じ、新たな出会いや新たな環境を求めて歩いていくことをサポートする場でありたいと考えています。皆様にとって幸多き1年となりますようお祈り申し上げます。

宇都宮市青少年活動センター
指定管理者 公益財団法人とちぎYMCA
所長 菅井 宏益

子どもの居場所 アットホームきよはら 「干し柿」



送っております。美味しくできることを祈っています。

だんだんと寒くなってきたので風情が出るかと思いきやクリスマスツリーを出し、利用者様と一緒にリビングで飾りつけを行いました。「私分かんないよ。こんなでいいのかわい?」など困惑しながら一生懸命飾り付けを手伝ってくださる利用者様に周囲の方も笑顔になり、とても暖かい時間となりました。ライトをつけると「わあ、とってもきれいね」と感動されていたので出す時期は早めでしたが出してよかったなと改めて思

ました。12月はライトアップする時間を設けるので少しでも癒しを提供できたらうれしいです。先月は寒暖差が激しく、コロナウイルス感染者の増加で体調面に影響がないか心配でしたが利用者の皆さまは大きく体調を崩すことなく穏やかに過ごされています。これからは寒さが厳しくなってくる上にインフルエンザも流行る季節となります。より一層感染対策に力を入れ、皆さまに安心して過ごしていただけるよう職員一同で努めてまいります。



インターン生が子どもたちのための豊かな体験のために活躍中!



とちぎコミュニティ基金主催たかはら子ども未来基金学生 NPO インターンシップの学生 4 名がとちぎ YMCA にて活躍しています。このインターンシッププロジェクトは、今年の 9 月～来年の 2 月までの期間、県内の NPO にインターン生として活動し、地域の課題解決のソーシャルアクションを行い、県内のユースを育成するプロジェクトです。とちぎ YMCA に来ているインターン生は、「YMCA Future Engineer」というプログラムを中心に活動し、Amazon のプログラミング教材を通して、子どもたちにテクノロジーを通じた体験の機会を増やすミッションを担っています。とちぎ YMCA がユース・エンパワーメントのプラットフォームとなり、社会へのインパクトを創り出すことを願っています。活躍中のインターン生 4 名を紹介いたします。



①名前 (あだな) ②学校名・学部・学年 ③インターンに応募したきっかけ ④インターン進行中における感想

①森田 芳樹 (もりよし) ※写真左端
②宇都宮大学工学部 2 年
③私は個別指導塾でのアルバイトを通して教育関係について関心を持ちました。利益を目的としない教育活動を通して、経済的・家庭環境に悩みを持つ子供たちに真剣に向き合い教育の重要性に気付けたらと思い参加に至りました。
④はじめてのインターンということで不安でいっぱいでしたが、とちぎ YMCA の方々と連携して 2 回ほど子供向けのプログラミング体験教室を開催できたのでとても充実しています。課題はまだまだ解決出来ていない部分もありますが、ひとつひとつやり遂げたいと思います。



①毛 雨虹 (キティ) ※写真左から 2 番目
②宇都宮大学国際学部 2 年
③多くの人の人生をより豊かにしたいと考えているからです。様々な人との触れ合いの中でコミュニケーション能力を身に付けて、そしてインターンシップを通して今後どのような分野の知識を深めるべきかを明確にし、自分自身も成長していきたいと思っています。
④子供たちにプログラミングを教えるのが初めてです。最初には自分ができるのかを心配しています。実際にインターンシップを体験してみて、子供たちに理解できることの大変さと楽しみを知りました。そのための準備として何をすべきかを知ることができ、良い経験になったと感じています。これからもグループメンバーと協力しながら努力したいと考えております。

①淵上 将貴 (ふっちー) ※写真左から 3 番目
②宇都宮大学国際学部 3 年
③国際学部の活動の一環で自主夜間中学へボランティアに行った時に教育の重要性を痛感して時間があるうちに教育活動に携わりたいた感じたからです。自主夜間では学校に馴染めない生徒や若い頃に十分な教育を受けることができない生徒が大勢いて、彼らとの関わり合いで教育関係のインターンに関心を持ちました。
④今回のインターンシップでは主にプログラミングを教えているのですが、最近の参加者の子ども達は非常に PC 慣れしていて、逆に教えられることもあり新鮮な体験を積ませていただいています。参加者の子どもたちが楽しみながらプログラミングを学べるようにこれからも励んでいきたいです。

①伏本 遥 (ふっしー) ※写真右端
②宇都宮大学工学部 2 年
③「子ども支援」に関して昔から興味があり、私が大学で学んでいる工学系の知識を自分が好きな分野で活かせる機会だと思ったからです。また、このインターンでの活動を将来の進路を考えるきっかけにしたいと思ったからです。
④とちぎ YMCA での活動だけではなく、子どもの居場所「月の家」などの外部団体とのコラボ企画を 1 から企画していくことがとてもおもしろいと感じました。参加者に「たのしかった!」と思ってもらえるように、自分たちも楽しみながら活動を続けていきたいです。

“Together We Care” 東YMCAで国際協力Arts & Crafts Week

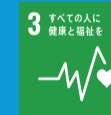


11 月末、宇都宮東 YMCA の各英語クラスでは「国際協力 Arts & Crafts Week」を実施、YMCA の行う国際協力について英語で学びました。ウクライナ避難者支援についてヨーロッパ YMCA 等のウェブサイトから情報を集め、もし自分たちが同じ状況に置かれ避難民になったら?と想像力を働かせて考えてみたり、日本にいる自分たちが出来る協力の仕方を考えてみました。

私達大人の予想以上に生徒の皆さんはニュースなどから既によく状況を理解していました。幼児クラスでは避難の様子の写真を見ながら「写真の人たちはどう感じていると思う?」の質問に、”sad” “cold” “hungry” “crying” と自分たちの知っている英単語を総動員した返事が。小学生クラスでは「日本から食べ物を送ってシェアする」「自分のおもちゃを自分より小さな子にあげたい」「ウクライナの人たちを日本に呼んではどうか」「体の不自由な人を助ける」などの意見が。中高生クラスからは「日本から医療スタッフを派遣出来ないか」「子どもに人気の漫画本を送る」「You are always in our thoughts. などメッセージを送る」「寄付を送る」などの意見が出てきました。

その後各クラスでクリスマスオーナメントを製作、作品を 12 月いっぱい東 YMCA にて展示・販売し、合計で 6,500 円の収益となりました。保護者の皆様からもご寄付で手工芸品等ご出品を頂き、ご協力に心より感謝申し上げます。販売収益は全て YMCA 国際協力募金に用いられます。

日本YMCAと台湾YMCAの絆を更に強く



12 月 7 日 (水) から 9 日 (金) までの 3 日間、台湾の台北 YMCA で「日台 YMCA 連絡委員会・日台 YMCA マネージメントセミナー」が開催されました。日本と台湾の YMCA から 39 名のスタッフが集い、とちぎ YMCA からは塩澤総主事とスタッフの荒井が出席しました。そこでは、日本と台湾のローカル YMCA が集い、コロナ禍で中断された交流をどのように再開していくか、新たな協働について協議し、オンライン等を活用した交流研修や情報交換を実施するなど新たな方向性を確認することができました。委員会終了後、山田理事 (社福) とも合流し、とちぎ YMCA のパートナーである南投 YMCA (南投縣) に訪問し、施設見学や今後の交流についての協議を行いました。

2015 年からスタートしたとちぎ YMCA と南投 YMCA の協働で実施している南開科技大学・朝陽科技大学学生の介護海外実習受け入れプロジェクトも 7 年が経ち、計 36 名の学生がとちぎ YMCA で学びや体験を深めていきました。これまでの学生との再会も実現し、社会人として羽ばたく姿を見ることができました。



荒井 浩元

お年玉募金にご協力ください!



今年もとちぎYMCA 国際協力募金の強化期間として「お年玉募金」を行います。お年玉の一部をYMCAの活動を通して、アジアや世界の人々のために使わせていただきます。ご協力よろしくお願いいたします。

【とちぎYMCA 国際協力募金強化期間】

お年玉募金 2023年1月～3月末日

【募金方法】

1. YMCA 各拠点にて
2. 郵便振替
00340-8-40685 とちぎYMCA 募金口(*お年玉募金と明記ください)
3. クレジットカード
とちぎYMCAのホームページ国際協力募金のページよりご登録いただけます。

【YMCAの国際協力募金】

YMCAの国際協力募金一人ひとりのいのちが大切にされる、「ポジティブネット」のある豊かな社会を目指します。

- ・子どもたちの「遊びたい!」「学びたい!」ができるように
- ・若者の「地域や世界をよりよく変えたい!」が実現できるように
- ・互いを大切に思い、平和な社会を創ることができるように

★とちぎYMCAでお預かりした募金は以下のような支援のために使われます。

1. 日本YMCA同盟を通して、世界のYMCAの活動支援
 - ・ウクライナ避難者支援活動
 - ・アジアのYMCA支援
 - ・緊急災害支援

2. フィリピンの学生への奨学金
 - ・タラ HRCF 高校生・大学生支援 (高校生2名・大学生2名の支援)
 - ・ナボタス 大学生支援

*ナボタスの学生への奨学金はコロナ禍で一時ストップしていましたが、新たな奨学金制度ができ、毎年2名の大学生の支援から再開していくこととなりました

3. とちぎYMCA 国際プログラムへの支援

【奨学生からのメッセージ：Jayme Cabigne (HRCF) より】



とちぎYMCAの奨学生に選ばれたことを誇りに思っています。この機会を与えていただき、みなさんの支援に心からお礼申し上げます。みなさんの支援が私の目標達成の手助けとなります。

皆様のやさしさと寛大さに心から感謝しています。みなさまの寛大をうけ、私もいつか子どもたちの夢をサポートできるようにになりたいと思うようになりました。

本当にありがとうございます。皆様に神のご加護がありますように。



月刊# (ハッシュタグ)



とちぎYMCA総理事
塩澤 達俊

第20回 #なにそれなにそれ

#ウンカ#蜜香紅茶#無患子#羽根つき

初日の出を拝むと気持ちがいいですね。年神様は日の出とともにいらっしやると考えられていたのも分かる気がします。また新しい年に、新しいものを卸すのもよいこととされています。感謝とともに気持ちも新たに出発!という感じでしょうか。

お正月ということで、12月に台湾の先生からいただいた紅茶(蜜香紅茶)を開けてみました。淹れてみて、その名の通り蜜のような甘みと香りでビックリ!さらに、製造法を調べて、またまたビックリ!です。

というのも、この風味は《ウンカ》という羽虫に食べられた葉っぱだけが出せる甘みで、わざわざ虫を寄せて虫食いの葉っぱだけを摘んで作られるお茶なんだそうです。

「こりゃだめだ」と除けたはずの葉っぱが光輝いた怪我の功名の味わいというわけです。

ところで、蜜の味の立役者《ウンカ》は江戸時代に起きた享保や天保の大飢饉の原因とされる稲の大敵で、いまでも稲作の《害虫》です。しかも毎年、遠く東南アジアのベトナムなどから中国を経て梅雨時期にジェット気流に乗って日本に飛来するツワモノです。



一方《ウンカ》を食べてくれるトンボは《益虫》とされ、古来より羽子板には木の種の無患子(ムクロジ)と組み合わせた羽根をトンボに似せて、羽根つきに厄除けや無病息災のお守りの意味を持たせたとも言われます。

そういうわけですから、《ウンカ》はエライッ!《トンボ》もエライッ!みんなみんな《あんた》はエライッ!なにかと縁起のよい新年です!

あらゆる国の、あらゆる状況の、あらゆる人々の、あらゆるわたしたち一人ひとりのうえに、新しい初日が昇りました。それぞれの空模様は違えども、新たなスタートラインに今年も立ったのですから、「運気のいいときでも行動しなければいい運はつかめませんし、わるい運気などホントはなくて(虫食いの葉っぱが甘露を生むように)出来事はすべて結果的によくなる」と信じて、あとは風任せ、ジェット気流や貿易風に乗って軽やかに行動してみましよう!

“もったいない”を“ありがとう”に 「フードドライブ」にご協力をお願い



生活困窮者への支援、また世界の食糧問題を考える機会に、ご家庭で余剰となっている食品のご寄付をよろしくお願いいたします。

【食品の支援先】

児童養護施設、母子支援団体、女性シェルター、福祉施設など

【募集期間】

2023年1月11日～2月9日

【集荷場所】

宇都宮YMCA・さくらんぼ幼稚園、宇都宮東YMCA、トライ東

★ 寄付してほしい食品 ★

1. 未開封のもの
2. 賞味期限がなるべく1か月以上あるもの
3. 冷蔵や冷凍でないもの

例) ギフト食品(お中元など)、レトルト食品、缶詰、おかずになるもの、乾麺類。酒類は除く。

